



世界へ飛び出せ！ 明大生 協定校留学日記

Vol.13 マレーシア・マレーシア科学大学
ミックスカルチャー

国際日本学部4年
新屋敷 茉奈実



滞在中の家(23階)からの景色

私は、2015年9月から2016年6月までの10カ月間マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に留学しました。マレーシアは多民族・多宗教国家と言われており、主にマレー系、中華系、インド系の民族で構成されています。イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教などの宗教を信仰する人が多いです。ペナン島はマレーシア第二の都市であ

Profile

新屋敷 茉奈実

Manami Shinyashiki
1994年生まれ神奈川県出身
国際日本学部国際日本学科4年
所属ゼミ:山脇啓造ゼミ(多文化共生)
国際交流学生委員会



ストリートアートの前で

とは何かを知りたいと思いました。また、大学一年次より所属していた国際交流学生委員会という留学生の生活・学習サポートをする団体での経験から、日本を違った角度から見たいと思っていました。

マレーシアに着いてまず最初に驚いたのは英語の普及率の高さです。マレーシアの母語はマレー語であるにも関わらず、英語を流暢に話せる人が非常に多かったです。私はこの留学を通して、「共通語としての英語」を強く感じました。マレー系はマレー語、中華系は中国語を日常的に使用していますが、他の民族と会話する時には英語を

り、リゾート地としても有名です。中心都市のジョージタウンは、多様な文化が混ざり合った独特な街並みが評価され、世界遺産に登録されています。季節は大きく雨季と乾季に分かれ、一年中真夏の暑さが続きます。マレーシア科学大学は、文系・理系両方の学部を持つ総合大学です。キャンパスは広く、緑も多いです。たまにリスを見かけることがあります。

なぜ私が留学しようと思ったかという点、マレーシアの多様性に興味を持ったからです。異なる背景、価値観を持った人々が共に暮らすことで生まれる利点や問題点教のことに関わらずマレーシア留学で見聞きしたことを日本で発信していくことが留学生として求められているように感じました。

課外活動においては、現地の学生と交流を深めるためにチャイニーズオーケストラという中国の伝統楽器を演奏する音楽団体に所属していました。私は弦楽器である二胡を担当していました。部員の9割以上が中華系の学生だったため、中国語が主に使われていました。中国語を全く話せない私は、通訳をもらいながら練習に参加していました。練習は週に1、2回行われ、コンサート前は毎日夜12時近くまでありました。練習やコンサートを通して現地の学生とたくさん交流することができ、友人にも恵まれました。同じ楽器のメンバー23人でランカウイ島に旅行をしたり、友達の家に泊まらせてもらうなど、数々の思い出ができました。



チャイニーズオーケストラの二胡グループ

この留学を通してたくさんの人に出会いました。国籍が違う人、宗教を信仰している人、英語も日本語も通じない人など、彼らと出会ったことで私の価値観や考え方が大きく変わりました。10カ月という長いようで短い期間の中でできた人とのつながりを大切にしていきたいと思います。そして、これから先もさらにつながりを広げていきたいと考えています。

使用していました。現地の中華系の友人から聞いた話によると、小学生的頃からマレー語、英語教育は必須となっているということでした。そのため、マレーシアには多言語話者が多く、日本との言語教育の違いを実感しました。

留学先では学習面、課外活動の両方に力を入れました。



中国語クラスのメンバー

まず、学習面においては宗教やASEANに関するものを中心に履修し、マレー語や中国語といった言語科目も学びました。英語で開講されている授業をとっていましたが、はじめのうちはマレー訛りの強い英語などで内容を聞き取ることが苦勞しました。1カ月を過ぎたあたりから徐々に独特な英語に慣れることができました。一番印象に残っている授業は世界の宗教を取り上げたものです。教授と生徒の大半がイスラム教徒でした。授業中に、教授からイスラム教についてのどのようなことを思っているのか意見を求められました。私は正直に、マレーシアに来る前はネガティブな印象があったが、今は思ったよりも穏やかな宗教で驚いているということをお伝えしました。教授から、「イスラム教が本来とは違ったイメージで世間に浸透してしまっている。悲しい。あなたにはここで実際に見たイスラム教の姿を日本で伝えて欲しい。」と言われました。私は、宗